

平成 2 2 年度

飲料水検査精度管理調査実施要領

一般社団法人 全国給水衛生検査協会

平成22年度 飲料水検査精度管理調査実施要領

1. 調査目的

本調査は、飲料水測定分析に従事する諸機関が、均一に調製された試料を分析することによって得られる結果と前処理条件、分析機器の使用条件等との関係その他分析実施上の具体的な問題点の調査を行うことにより、①分析機関におけるデータのばらつきの程度と正確さに関する実態を把握し、②参加機関の分析者が自己の技術を客観的に認識して、分析技術の一層の向上を図る契機とし、さらに、③各分析法についての得失を明らかにして、分析手法、分析技術の改善を図り、もって、分析の精度及び正確さの向上、データの信頼性の確保に資することを目的とする。

2. 分析対象項目

調査項目は、カルシウム、マグネシウム等（硬度）及びトリクロロエチレンの2項目で、各項目について濃度の異なる2種類のサンプルである。

3. 配布試料の概要

分析用試料

名 称	No	送付量	容 器	個数	溶 媒
カルシウム、マグネシウム等（硬度）	1	1000mL	ポリエチレンビン	1	精製水
	2	1000mL	ポリエチレンビン	1	
トリクロロエチレン	3	500mL	ガラス瓶	1	精製水
	4	500mL	ガラス瓶	1	

注) 上記試料には、厚生労働省告示第261号の試料の採取及び保存処理は行われていません。

配布試料の濃度範囲は次のとおりである。

項 目	濃 度 範 囲
カルシウム、マグネシウム等（硬度）	2.0～100mg/L
トリクロロエチレン	0.001mg/L～0.10mg/L

4. 分析方法

分析方法は、水質基準に関する省令の規定に基づき厚生労働大臣が定める方法（平成15年7月22日 厚生労働省告示第261号）のうち、下表のとおりとする。

項目	分析方法	
カルシウム、 マグネシウム等（硬度）	別表第4	フレーム-原子吸光光度計による一斉分析法
	別表第5	誘導結合プラズマ発光分光分析装置による一斉分析法
	別表第6	誘導結合プラズマ質量分析装置による一斉分析法
	別表第20	イオンクロマトグラフ（陽イオン）による一斉分析法
	別表第22	滴定法
トリクロロ エチレン	別表第14	パーティクル・トラップ-ガスクロマトグラフ-質量分析計による一斉分析法
	別表第15	ヘッドスペース-ガスクロマトグラフ-質量分析計による一斉分析法

5. 分析実施上の注意点

- 1) 試料到着後、直ちに分析できない場合は、冷蔵庫等冷暗所で保存する。ただし、試料到着後1週間程度で分析を終了すること。また、試料びんの蓋を開けたまま長時間放置しないこと。
- 2) 標準液は、分析用試料の濃度範囲を考慮して適宜調製すること。
- 3) 試料の分析値は、配布試料溶液中の濃度として報告する。
- 4) 分析を行う者は、日常当該分析項目の担当者とする。
- 5) 測定回数、検水量等本実施要領に記載していない事項は各検査機関の判断で実施すること。

6. 報告書等の記入における留意点

- 1) 検査機関番号は、記入しなくて良い。
- 2) 測定結果等は、別添のフロッピーディスク（FD）のファイル（Microsoft Excel 2003形式）のワークシートに必要な内容を入力すること。
- 3) 報告書には、分析者の当該分析項目での経験年数、昨年度の分析検体数を記入する。

4) 分析結果は、分析溶液中の濃度 (mg/L) で表し、有効数字 2 桁 (3 桁目を四捨五入する) で表示する。

5) 指定した方法以外で分析を行った場合は、分析方法のフローシート、機器の測定条件等をできるだけ詳しく報告すること。

7. 提出報告書等

1) 報告書

別添のフロッピーディスク (FD) のファイル (Microsoft Excel2003 で作成) に必要な内容を入力したもの。

2) 分析チャート等

測定野帳、チャート及び検量線グラフ等の分析結果を得るために必要な記録類

3) 分析方法フローシート

前処理方法、用いた試薬の種類・量、検水量、試験溶液量等について簡単に記載する。

8. 調査に関する問い合わせ先

一般社団法人全国給水衛生検査協会 事務局

FAX 044-270-4376

必ず FAX で連絡すること。

9. 報告書の提出期限

平成 23 年 2 月 28 日 (月) 必着厳守

10. 報告書の提出先

一般社団法人全国給水衛生検査協会 事務局

〒210-0828 川崎市川崎区四谷上町 10-6 TEL 044-270-4375

FAX 044-270-4376